

富山方言「ナーン」に関する一考察

鈴木基伸 梅野由香里*

要旨

本稿では富山県富山市及び射水市において使用される「ナーン」の意味・機能について、小西(2015)の分析をもとに考察を行った。結果として、①「ナーン」が名詞相当句として機能し、コピュラや疑問詞を伴い、必ずしも否定の応答詞として機能しないことがある、②長音形「ナーン」と短音形「ナン」は機能的な差異があるため明確に区別すべきである、③相手のフェイスに配慮した「気遣いの『ナーン』」用法がある、④「ナーン」を広く談話標識の一種として扱い議論すべきである、ということを主張する。

キーワード：富山方言、「ナーン」、談話標識、応答詞、感動詞

1. はじめに

富山県は周囲を山地で囲まれ、内側には富山平野が広がっており、「平野の開拓を中心とした一つのまとまった生活圏を形成しており、民族や県民気質についても共通の特質を持っている」(富山新聞社大百科事典編集部 1976) ためか、県内のことばにあまり大きな地域差は見られない(下野 1983参照)。その富山県内において、広く用いられている「ナーン」という形式がある。これは主に否定の意を表す応答詞として用いられる。

(1) A: そんなにこのTV おもしろいが!?

B: ……なーん

(蜷気楼家族 第1巻、p.8より)

*大手前大学非常勤講師

この「ナーン」には短音形の「ナン」もあり、同様に否定の応答詞として用いられる(例文2)。また否定形と結びつかず、否定の応答詞として機能していない場合もある(例文3)。

(2) A: コノ服 カワイナイケ? (この服かわいくない?)

B: ナン カワイナイ。(いいやかわいくない。)

(3) A: おお～ 久しぶり!

B: なーん、ちょっと寄っただけでー (蜷気楼家族 第1巻、p.46より)

本稿では、この「ナーン」を考察の対象とする。「ナーン」の研究として代表的なものに小西(2015)がある。小西(2015)が提示した内容は「ナーン」の全体像をつかむうえで示唆的だと言えるが、さらに考察すべき点が残されている。本稿ではそれらの点に触れたうえでそこを出発点としてさらなる議論を行う。

本稿の筆者(梅野)は富山県射水市出身であり、両親は富山市出身である。出典が明記されていない、または引用であることが表記されていない例文については筆者の作例である。

2. 先行研究

富山県方言「ナーン」の研究として代表的なものに小西(2015)が挙げられる。小西氏は富山県富山市田畑新町出身であり、母方言は富山市方言である。小西(2015)は小西氏の内省に依拠したもので、韻律的特徴も含め、「ナーン」の意味・機能が包括的に分析された画期的な研究だといえる。本節では、小西(2015)で述べられている内容を引用しながら、「ナーン」がどのような意味・機能を持っているのかを説明する。そしてそのうえで、本研究が「ナーン」の研究に対して寄与するために考えるべきいくつかの点を列挙する。

2.1 小西(2015)

小西(2015)は、富山市方言の「ナーン」の意味・機能について分析し、結果として「ナーン」が①否定の陳述副詞として、②応答詞として、③フィラーとして機能する可能性があることを述べた。さらに応答詞として機能する場合にはコピュラ(ダ・ヤ)を伴う場合とそうでない(単独で用いられる)場合があること、フィラーとして機能する場合には「否定」を標示する場合と「意外性・重大性」を標示する場合があることを指摘している。以下に、小西(2015)が提示した例文を機能別に引用する。

①否定の陳述副詞

〈事態の生起頻度・変化幅が期待・予測より極端に少ない〉

(4) 最近 太郎 カラ ナーン 連絡 コン。(最近、太郎からちっとも連絡が来ない。)

(5) 風邪 ナーン 治ラン。(風がちっとも治らない。)

〈数量・程度が期待・予測より著しく劣る〉

(6) オープン ノ 日ニ 行ッテミタレド、客 ナーン オオナカッタ。(オープンの日に行ってみたけど、客がちっとも多くなかった。)

(7) コノ本 オモシユー 評判ダッタレド、読ンデミタラ、ナーン オモシナカッタワ。(この本は面白いという評判だったけど、読んでみるとちっとも面白くなかった。)

〈数量・程度が期待・予測より著しく多い・高い〉

(8) 客 スクナイユーテ キイトツタレド、行ッテミタラ ナーン スクナナカッタ。
(客が少ないと聞いていたけど、行ってみたらちっとも少なくなかった。)

〈数量が期待・推測より著しく少ない〉

(9) 冷蔵庫ニ オカズニ ナリソウナモン ナーン ナイ。(冷蔵庫におかずになりそうなのがちっともない。)

②否定の応答詞

②-1 「ナーン+コピュラ」

〈既定の事実の真偽判断を問う疑問文(「のだ」文の疑問文)に対して「偽」の判断を表明する〉

(10) A: カ アンタノ 傘ケ。(これはあなたの傘?)

B: ナーンダ。(違う。)

(11) A: 太郎チャ 結婚シトンガケ。(太郎って結婚してるの?)

B: ナーンダヨ。シトランヨ。(いや/? 違うよ)。してないよ。)

②-2 「ナーン (単独)」

〈真偽疑問文に対し「偽」の判断を述べる〉

(12) A: 太郎チャ 結婚シトンガケ。(太郎って結婚しているの?)

B: ナーン、シトランヨ。(いや、していないよ)

(13) A: アンタモイッショニ行ク?(あなたも一緒に行く?)

B: {ナーン/*ナーンダ}、行カン。(いや/? 違う)。行かない。)

※意向の問いかけに応える場合、「ナーンダ」は不適格となる。

(14) 太郎チャ結婚シトツタカナ。ナーン、シトランハズヤナ。(太郎って結婚していたかな。いや、していないはずだな。)

〈真偽判断の可能性の否定〉

(15) A: 太郎チャ 結婚シトンガケ。(太郎って結婚しているの?)

B: ナン、ワタシ シランヨ。(いや、私は知らないよ。)

〈情報提示行為の否定〉

(16) A: アレ? ドコ 行クガ? (あれ? どこ行くの?)

B: ナン、チョットトイレ。(いや、ちょっとトイレ。)

(17) A: ドーシタガ。顔色 悪イゼ。(どうしたの? 顔色悪いよ。)

B: ナン、ナンデモナイガ。(いや、何でもないの。)

(18) A: トコロデ オ昼 何 タベル? (ところでお昼は何食べる?)

B: ナン、今 関係ナイネカソノ話。(いや、今は関係ないでしょ、その話は。)

③フィラー

③-1 〈否定〉標示の「ナン」

〈真偽判断を問う命題に対して偽という判断を示す〉

(19) A: 先生 ナンカ ユートラレタ? (先生は何か仰ってた?)

B: 先生チャ、ナン、ナニモ イワレンダゼ。(先生は、いや、何も仰らなかったよ。)

(20) 私、太郎チャ 結婚シトル オモトッタレド、ナン、ソーデナカッタ。(私は太郎は結婚していると思っていたけど、いや、そうではなかった。)

(21) A: 論文 ドコマデ書イタ? ミシテヨ。(論文どこまで書いた? 見せてよ。)

B: 今日人訪ネテキタリシテ、ナン、ゼンゼンススマンダガ。明日ミセッチャ。
(今日は人が訪ねてきたりして全然進まなかったの。明日見せるよ。)

〈否定述語を伴わない場合〉

(22) A: コノ本エライタカナイケ? (この本すごく高くない?)

B: 学術書ダカラコノグライ、ナン、普通ダチャ。(学術書だからこのぐあい
まあ普通だよ。)

(23) A: 論文ドコマデ書イタ? ミシテヨ。(論文どこまで書いた? 見せてよ。)

B: 今日、ナン、風邪ヒーテズット寝トツタガ。(今日はもう、風邪をひいて
ずっと寝ていたの。)

③-2 〈意外性〉〈重大性〉標示の「ナーン」

〈問題となっている命題に対して偽の判断を示さない〉

(24) アンタチャナンヒドイ人ダネ。(あなたは、もう、ひどい人だね。)

以上が小西 (2015) で分類された用法である。小西 (2015) では最終的に、「ナーン (長音形)」と「ナン (短音形)」のどちらが主に使われるか、韻律境界の有無、〈否定〉の意の有無という項目を含め、以下のようにまとめられた。

表1 「ナ（ー）ン」の形態、韻律・統語、意味上の異同

	優勢形	韻律境界	〈否定〉の意
(a) 否定の陳述副詞	長音形	なし	あり
(b) 応答詞（+コピュラ）	長音形	なし	あり
(c) 応答詞（単独）	長音形 ※一部は短音形	あり	あり
(d) フィラー			
1) 〈否定〉標示	短音形	あり	あり
2) 〈意外性・重大性〉標示	短音形	あり	なし

(小西 2015 : 130より)

2.2 考察すべき点について

小西（2015）の研究は、「ナーン」の全体像を明らかにするうえで極めて示唆的であるといえるが、検証・考察すべき点がいくつか残されている。一つ目の考察すべき点は「ナーン」の分類の仕方である。否定の応答詞の例として挙げられている例で以下のようなものがある。

(25) 答エコレデオトンガケ、ナーンケ。（答えはこれで合っているの？違うの？）

(小西 2015 : 119)

筆者の内省によれば、この「ナーン」は相手の発話に対して応答しているわけではない。「合っているのか」という肯定の疑問文に加え、「合っていないのか」という否定疑問文が並べて述べられているものである。よってこれを否定の応答詞として扱うのは問題がある。

二つ目は、「ナーン」と「ナン」の違いについてである。小西（2015）はそれぞれの用法の中でどちらが優勢かということについて言及はしているが、否定の陳述副詞「ナーン」の記述のところでは、「筆者には「ナーン」が基本的な形、「ナン」はぞんざいな発話で短音化したものという意識がある」（小西 2015 : 116）とし、両者の機能的な区別までは立ち入っていない。しかしながら、小西自身も述べているように、「ナーン」は容認されるが「ナン」は容認されない、またその逆といった相補的な関係を見せる場合もある。よって「ナーン」と「ナン」の機能的な違いについても分析・考察をすべきであろう。

三つ目は、小西（2015）の中で触れられていない、また小西（2015）が行った分類のどこにも属さないような用例についてである。以下の例は否定の意を表しているわけでもないが、かといって〈意外性〉〈重大性〉を表しているわけではない。

- (26) A: アンタントコノ 下ノガ 中部¹⁾受カッタガ? (あなたのところの下の息子(娘)さん中部高校に受かりましたか?)
B: ナーンナンナン ソイガソイガ。(いやいやそうなんですよ。)
- (27) A: アンタントコノ孫 ウマレタガケ? (あなたのところお孫さんは生まれましたか?)
B: ナーンナンナン ソイガ。(いやいやそうなんですよ。)

この〈-否定の意〉〈-意外性・重大性〉というのは小西(2015)が示した表の中のどこにも該当しないものである。これは山根(2003)が「気遣いの「いや」」としたものに類する用法である。また「ナーン」と「ナン」を重ねるという形式も小西(2015)の中では触れられていない。

最後に、談話標識との関連についてである。小西(2015)は「ナーン」を陳述副詞、応答詞、フィラーとして機能する場合があることを指摘しているが、これらの中には話し手の談話管理に関する談話標識として機能しているものもある。「ナーン」を談話標識という点から分析することも必要であろう。

以上のような点がさらに考察すべき内容である。以下では上述の問題点を一つ一つ考察していくことにする。

3. 「ナーン+コピュラ」形について

「ナーン+コピュラ」の形は否定の応答詞として働く。小西(2015)も述べるように、これは「ナーン」を体言として捉えた形である。「ナーン」は共通語の「いえ」「いいえ」「いや」に相当するが、それらにコピュラを付けることはできない。

- (28) A: これはあなたの傘ですか?
B: {いえ/*いえです}。
- (29) A: 太郎は結婚していますか?
B: {いいえ/*いいえです}。

共通語においてこのような表現ができないのは、「いえ」「いいえ」「いや」はあくまで感動詞であり、名詞として扱われないからに他ならない。富山市方言の「ナーン」において「ナーンダ」「ナーンヤ」のようにコピュラを付加できるのは、「ナーン」が

1) 富山県立中部高等学校のこと。県下の有名な進学校。

名詞相当句として捉えられているからだろう。ただあくまでここでは応答詞として使われているため、補語として用いることはできない。

- (30) 【商品に不具合がないかチェックをしながら】「コレハ OK。コレハ {*ナーンヤ/ダメヤ}」。

それゆえあくまで否定の応答詞として機能する中で、名詞的な振る舞いをしていと言える。

小西 (2015) が挙げた例の他、筆者 (梅野) の経験では、「ナーン+コピュラ (ヤ)+終助詞 (チャ)」の形も多く使用される。

- (31) A: カ アンタノ 傘ケ。(これはあなたの傘?)
B: ナーンヤチャ。(違う。)
- (32) A: 太郎チャ 結婚シトンガケ。(太郎って結婚してるの?)
B: ナーンヤチャ。シトランヨ。(いや。してないよ。)

終助詞チャは井上 (1995a, 2006) によれば「このことはすでに真であることが定まっている規定事項である」という心的態度を表し、共通語の終助詞「ヨ」に相当する。したがって「ナーンヤチャ」という形は共通語に直訳すれば「いいえだよ」という形になる。

また「ナーン」が名詞相当句として振る舞うゆえ、疑問詞のケを付けることが可能となる。「名詞+疑問詞ケ」の(カアンタノ)傘ケのように、「ナーンケ²⁾」という形をとり、否定疑問文を作ることがある。

- (33) 【釣りに行った息子に釣果を訪ねて】今日釣レタケ? ナーンケ? (今日は魚釣れた? 釣れなかった?)
- (34) 【翌日の天気聞いて】明日チャ晴れケ? ナーンケ? (明日は晴れですか? 晴れじゃないですか?)

この「ナーンケ」は前に置かれた肯定形の疑問文に追加される形で置かれるが、発話

2) これは共通語に直訳すれば「いいえですか」に相当する。共通語においても以下のように形式的には「はいですか」「いいえですか」は成立する。

(i) 答えは「はい」ですか? 「いいえ」ですか?

ただしこれらは「はい」「いいえ」という感動詞を引用したうえで「ですか」を付加しているわけであり、「はい」「いいえ」が名詞化しているわけではない。

者の心情としては、相手が否定で答えたとしてもそれを受け入れる準備があるというものがある。(33)であれば「たとえ釣れなくてもよい」(34)「たとえ晴れじゃなくてもよい」ということである。つまり「ナーンケ」を付け加えることによって相手に「ナーン(いいえ)」と答えやすくしているのであり、相手のことを慮った配慮の表現だと言える。

以上、「ナーン+コピュラ」文を見てみると、コピュラを伴うという形式面から「ナーン」が応答詞として機能しているものの、その振る舞い自体は名詞に近いことがわかる。また(33)(34)に見たように、相手の反応を待たずに使える「ナーンケ」があることから、応答詞という枠組みで捉えるよりはあくまで名詞相当句として捉えた方が合理的であろう。ただ(30)に示したように、補語になれないという点で名詞句として処理することにも問題がないわけではない。それゆえここでは、「ナーン」はコピュラ・疑問詞を伴って「ナーンダ」「ナーンヤ」「ナーンヤチャ」「ナーンケ」のように名詞相当句のような振る舞いをするものの、否定の応答詞や否定疑問文として機能することを主とする、という程度の記述にとどめる。

4. 「ナーン」と「ナン」の関係について

小西(2015)の中で、「ナーン」と「ナン」の違いはぞんざいさの違いであり、「ナーン」が基本的な形であるという指摘がされているが、小西自身も述べているように、意味・機能によって優先される形があるため、両者を別の形式として捉えた方が妥当であろう。これは共通語の「いえ」と「いいえ」の違いに近い。

富樫(2006)が述べるように、「いえ」と「いいえ」は否定応答詞として機能的に重複するところもあるが、代替不可能な場合もあり、両者は本質的に異なる。富樫(2006)は「いえ」と「いいえ」の本質的機能を以下のように述べている。

- (35) 「いいえ」の本質的機能：提示された情報そのものの整合性計算の結果、不整合となったことの標示
- (36) 「いえ」の本質的機能：提示された情報そのものの整合性計算の結果、不整合となったことの標示、ただし提示行為の不整合性標示にも用いることができる。

(以上、富樫 2006: 39)

富樫(2006)はこの違いを説明するために以下のような例を挙げている。

- (37) (体調がわるそうなBを見て)
A: どうしたの? 顔色悪いよ。
B: いえ/??いいえ、何でもありません。
- (38) (Bがそっと部屋を出て行こうとするのを見て)
A: あれ、どこ行くの?
B: いえ/??いいえ、ちょっと急な用事が入って。 (以上、富樫 2001: 33f)

これらの会話例において、「いえ」が適切とされるのは、Bが意図するのは「顔色が悪いこと」「部屋を出て行くこと」を否定するのではなく、それらの問いかけそのものに対して否定もしくは拒絶をしているからである。このような情報の提示行為そのものに対する反応を「いえ」は示すことができる。このような機能的差異が「いいえ」と「いえ」に見られる以上、「ナーン」と「ナン」にも同様の機能差、もしくはそのような機能差はないにしても別の機能的差異があるという予測が立てられる。

小西 (2015) が指摘しているように、否定の陳述副詞、応答詞として機能する際には「ナーン」が優先され、フィラーとして機能する場合には「ナン」が優先される。小西 (2015) はあくまで優先されるとして両形式の排他性について言及はしていないが、筆者の内省に基づけば、どちらでもよい場合と排他的な場合との両方がある。

まずは両者が代替可能な場合について見てみよう。小西 (2015) が陳述の副詞として機能しているとして提示した例の中では、「ナーン」と「ナン」は代替可能である。

- (39) 最近太郎カラ {ナーン/ナン} 連絡コン。
(40) 風邪 {ナーン/ナン} 治ラン。

また、「ナーン」単独で否定の応答詞として機能し、かつ「ナーン」の後に続く発話がある場合、つまり「ナーン」言い切りではない形の場合、「ナン」に置き換えることができる。

- (41) A: オ母サン デカケトルアイダ ダレカ来タ?
B: {ナーン/ナン} ダレモ コンダヨ。
(42) A: せっかくやから泊まったら? ダンナ、仕事で2カ月帰ってこんし
B: いや〜、悪いちゃ
A: {なーん/なん}、いいがってー (蜷気楼家族 第2巻、p.65より)

次に、「ナーン」しか容認されないケースを見る。これは小西 (2015) が「ナーン」

が優先されるとした否定の応答詞の中で、かつ「ナーン」言い切りの形の場合である。

- (43) A: ソノ本 オモシロイガ? (その本おもしろいの?)
 B: {ナーン/??ナン}。(いいえ)
- (44) A: サッキノ子ッテ アンタノ友達? (さっきの子ってあなたの友達?)
 B: {ナーン/??ナン}。(いいえ)

最後に、「ナン」が適格となり、「ナーン」が不適格となる例文である。否定の応答をする際、複数回繰り返される場合には「ナン」のみが適格となる。

- (45) A: オ母サン コレ食ベテイイ? (お母さんこれ食べていい?)
 B: {ナンナンナン/??ナーンナーンナーン} ダメヤチャ。ソレ オ客サンノガ。(いやいやだめよ。それはお客さんのなの。)
- (46) A: アンタノコレ 捨テテイイ? (あなたのこれ捨ててもいい?)
 B: {ナンナン/??ナーンナーン} ダメダメ。ソレ ゴミジャナイガヨ。(いやいやだめだよ。それごみじゃないんだよ。)

以上に見てきた「ナーン」と「ナン」の代替性を以下のようにまとめる。

代替可	①陳述の副詞として機能している場合。 ②否定の応答詞として機能し、かつ後続する発話がある場合。
「ナーン」のみ	単独で否定の応答詞として機能し、後続する発話がない場合。
「ナン」のみ	否定の応答詞として機能し、かつ繰り返される場合。

このように、「ナン」と「ナーン」は代替可能な場合もあるものの、両者が排他的に存在するケースもある。これは「ナン」と「ナーン」の機能的重複が見られるものの、相補的に分布して互いに異なる機能を有していることの証左となろう。上記の表からわかることは、単独で応答詞として用いられる場合には「ナーン」しか容認されない。また反復する場合は「ナン」のみ、否定の応答詞か否かにかかわらず、前後に発話が伴う場合には「ナーン」と「ナン」の両方が容認されるということである。両形式の違いがぞんざいさの違いだけではないということをご指摘し、両者の具体的な機能差については紙幅の都合上今後の課題とする。

5. 気遣いの「ナーン」

2.2ですでに触れたように、小西（2015）が「ナーン」の機能・用法から提示した分類に当てはまらない用例として以下のようなものがある。

- (47) A：アントコノ 下ノガ 中部受カッタガ？（あなたのところの下の息子（娘）さん中部高校に受かりましたか？）
B：ナーンナンナン ソイガソイガ。（いやいやそうなんですよ。） [= (26)]
- (48) A：アントコノ孫 ウマレタガケ？（あなたのところお孫さんは生まれましたか？）
B：ナーンナンナン ソイガ。（いやいやそうなんですよ。） [= (27)]

これらにおける「ナーンナンナン」は否定の応答詞として機能しているわけではない。一見否定をしているように見えるが、その後「ソイガ（そうです）」と続いていることからわかるように、最終的に疑問文に対して肯定の答えを示している。したがって否定の応答詞としては機能していない。また (16)～(18) のような「情報の提示行為」の否定というわけでもない。(16)～(18) における情報の提示行為への否定が表される場合は、相手の問いかけそのものが場に不適切である必要があるが、(47) (48) における「中部（高校）に受かった」「孫が生まれた」というめでたいことであり、かつ最終的に肯定しているため、情報の受け手にとってそれが都合が悪い・聞かれて居心地が悪いというわけではない。

ここで「ナーンナンナン」が表しているのは、一種の謙遜である。「中部高校に受かった」「孫が生まれた」ということはめでたいことであるが、それをそのまま素直に受け入れては相手に不快感を与えるかもしれないので、一旦「ナーンナンナン（いやいや）」と否定しておいて、最終的に肯定しているのである。これは山根（2003）が共通語の「いや」について論じた際、「気遣いの『いや』」とした用法に近い。「気遣いの『いや』」は、相手のほめ言葉に対する謙遜を表す際に用いられる。

- (49) G：東条さん 切腹せねばならねども 切りたくもあり 切りたくもなして
いうのだったわね。
I：すごい鋭い
G：いやいや そしたら川上三太郎先生からですね 大変ほめていただいて
(山根 2003 : 141)

山根 (2003) の「気遣いの『いや』」に倣い、ここでは「気遣いの『ナーン』」用法と称したい。「気遣いの『ナーン』」はあくまで謙遜の表現であるため、否定詞としては機能していない。否定を表さないという点から小西 (2015) の分類に当てはめるとフィラーとして機能する〈意外性〉〈重大性〉標示の「ナーン」に属することになるが、(47) (48) の「ナーンナンナン」は〈意外性〉も〈重大性〉も標示しているわけではないため、小西が示した分類のいずれにも当てはまらないということになる。

6. 談話標識としての「ナーン」

最後に、談話標識という観点から「ナーン」について論じる。談話標識とは、「伝達すべき情報内容そのものではなく、内容に関する捉え方、伝え方などについて運用上の目印となるもの」(加藤 2006: 133)である。談話標識とはその機能による分類ではないため、いくつかの品詞にまたがって存在する。加藤 (2006) は、従来の副詞の三分類 (情態副詞・程度副詞・陳述副詞) を再構築し、その中に談話標識的機能を果たす談話副詞 (まあ、なんか、とりあえず) を設定している。また加藤 (2006) は感動詞を①挨拶語彙 (ただいま・ありがとう・ごめんなさい・どういたしまして・どうも)、②応答語 (はい・ええ・うん・いいえ・いや・おい・こら・さあ・もし・もしもし・よし・ほら)、③未分化語 (ええと・あのー・そのー・あれ (れ)) の三つに分け、未分化語の一部を含めた応答語は談話標識の機能を持つとした。

富山市方言の「ナーン」は共通語の「いえ」「いいえ」「いや」に類するものであり、共通語の「いえ」「いいえ」「いや」は談話標識として機能するため、「ナーン」も談話標識の一種として見るべきであろう。

小西 (2015) は否定の陳述副詞でも否定の応答詞でもないものをフィラーの「ナン」として分類しているが、フィラーとはそもそも言葉を発する際の「言いよどみ」(森山 2005) であり、否定を標示したり意外性・重大性を標示する時点でフィラーと分類することに問題があると言わざるを得ない。陳述の副詞でも応答詞でもないという点からフィラーへと分類したと考えられるが、あえてフィラーの一種とするよりは、談話標識の一種として捉えた方が適切であろう。小西 (2015) も指摘しているように、フィラーの「ナン」は発話冒頭へと移動すれば否定の応答詞として解釈可能になるとしている。典型的な「ええと」や「あのー」が発話冒頭へ移動したからといって品詞が変わるわけではないことから見ても、これらの「ナン」をフィラーとして処理するよりは談話管理機能が備わった否定の応答詞「ナン」として捉えるべきであろう。

7. まとめと今後の課題

本稿では、富山市方言の「ナーン」の意味・機能について、小西（2015）の研究をベースに考察してきた。「ナーン」は基本的に否定を表す応答詞として機能するが、否定を表す陳述の副詞として機能したり、両者の枠組みにはとられない談話標識的な機能も果たす。また5節で指摘したように、気遣いの「ナーン」とも呼べる用法があり、小西（2015）は否定を標示するフィラーとして分類される「ナーン」を論じた際に「聞き手のフェイスに配慮した表現」だとしたが、この気遣いの「ナーン」も相手が反応としての「否定」を行う際の負担に配慮したものであり、同様にフェイスを侵害しないための表現だと考えられる。

これまでの考察を以下のようにまとめ、本稿の結論として提示したい。

- ・「ナーン」は感動詞から転じて名詞的に使用されている。それゆえコピュラの「ダ」「ヤ」、疑問視の「ケ」などを付加することができる。
- ・「ナーン」は「ナン」のぞんざいな形として機能する場合もあるが、両者が排他的に使用されるケースもあり、機能的な差異を認めるべきである。
- ・「ナーン」には相手のフェイスに配慮した「気遣いの『ナーン』」がある。
- ・「ナーン」は質問に対する否定を表すと共に、質問そのものへの否定を表したり否定の意を表さないでフェイスに配慮した用法もあるため、広く談話標識の一種として取り扱うことが適切である。

今回提示した内容にはまだ考察の余地が残る。「ナーン」を名詞相当句として扱うとしたが、本来の名詞とは決定的に振る舞いが異なるところも多い。また「ナーン」と「ナン」の間には機能的な差異があることは指摘したがその内容までは踏み込めなかった。談話標識として扱うという点においても、どこからどこまでを談話標識として扱うのかという点についてもさらなる議論が必要である。これらの点については今後の課題としたい。

参考文献

- 1) 井上優（1998）「富山県砺波方言の終助詞「ジャ」の意味記述」『日本語科学』4, 122-134.
- 2) 井上優（2017）「終助詞の意味の体系性に関する試論—富山県井波方言の場合—」『言語と文明』15, 101-112.
- 3) 奥津敬一郎（1989）「応答詞『はい』と『いいえ』の機能」『日本語学』8, 4-14, 明治書院.
- 4) 加藤重広（2006）『日本語文法入門ハンドブック』研究社.

- 5) 小西いずみ (2015) 「富山市方言の「ナーン」否定の陳述副詞・応答詞およびフィラーとしての意味・機能」友定賢治 (編) 『感動詞の言語学』 ひつじ書房.
- 6) 小林隆・篠崎晃一 [編] (2010) 『方言の発見 知られざる地域差を知る』 ひつじ書房.
- 7) 下野雅昭 (1983) 「富山県の方言」『講座方言学 6 中部地方の方言』 国書刊行会.
- 8) 田窪行則 (1992) 「談話管理の標識について」文化言語学編集委員会 『文化言語学 その提言と建設』 三省堂.
- 9) 田窪行則・金水敏 (1997) 「応答詞・感動詞の談話的機能」音声文法研究会 (編) 『文法と音声』 くろしお出版.
- 10) 富樫純一 (2006) 「否定応答詞『いえ』『いいや』『いや』」矢澤真人・橋本修 (編) 『現代日本語文法 現象と理論のインタラクション』 ひつじ書房.
- 11) 友定賢治 (2007) 「否定応答詞の方言間対照」定延利之・中川正之 (編) 『シリーズ言語対照 1 音声文法の対照』 くろしお出版.
- 12) 藤井聖子 (2013) 「条件構文の談話標識化の諸相」『第4回コーパス日本語ワークショップ 予稿集』 27-34.
- 13) 森山卓郎 (1989) 「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』 1, 63-88.
- 14) 森山卓郎 (2005) 「アノ・エート・マアーフイラー」日本語教育学会 (編) 『新版日本語教育事典』 大修館書店.
- 15) 山根智恵 (2003) 「談話における『いや』の用法」『岡大國文論稿』 31, 129-120.

引用出典

「蜷気楼家族 第1巻」沖田×華 (2010)、「蜷気楼家族 第2巻」沖田×華 (2011)